



Title	関西グローバルヘルスの集い 冬の特別オンラインセミナー「Global Café 2020冬：わたしたちのグローバルヘルスを語ろう！」
Author(s)	小笠原, 理恵
Citation	目で見えるWHO. 2021, 76, p. 34-35
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86490
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

関西グローバルヘルスの集い 冬の特別オンラインセミナー 「Global Café 2020冬 ～わたしたちのグローバルヘルスを語ろう!～」



大阪大学大学院人間科学研究科
ユネスコチャータ運営室助教

小笠原 理恵

米国アリゾナ州で看護学を学んだ後、中国上海市の外資系医療機関でクリニックマネージャーを務める。2017年大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了、2018年より現職。

Global Café 開催にこめた 思い

関西グローバルヘルス (KGH) の集いは、コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックによって face-to-face の「集い」ができない状況の中、2020年5月からオンラインセミナーを始めました。緊急事態宣言発令による外出自粛中でも、知見を広く普及することにプライオリティを置いて、これまで2シリーズを計6回にわたってライブ配信 (YouTube のストリーミング配信) してきました。このオンラインセミナーは主催側の予想をはるかに上回る盛況ぶり、のべ3,000人以上の皆さまにご視聴頂きました。ただこの方法では、これまでKGHの集いが重きを置いてきた「自由闊達な議論の場の提供」が十分に適いませんでした。

そこで考えたのが、人数を絞った形でのオンラインワークショップを企画し、これまでのオンラインセミナーではできなかった双方向型ディスカッションの場を提供することです。立場や背景が異なる方々にご参加頂けるように、参加資格は緩く設定し (日本語で議論できるひと、議論に積極的に参加できるひとなど)、一人ひとりが考えるグローバルヘルスについて自由闊達に議論できる場づくりを目指しました。予定調和的な結論に落ち着かせたり、小賢しい提言にまとめたりするつもりはまったくなく、「思う存分に大風呂敷を広げましょう!」と呼びかけました。

多彩な人びとが集まって自由闊達な議論を交わし、未来につながるネットワークを構築していく、そこから何か思いもかけない素晴らしいアイデアが生まれるかもしれない。そんな場の提供を目指して始まったのが、Global Café です。

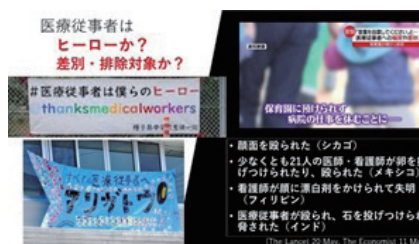
4つのCaféと 4人のCaféマスター

Global Café では、過去6回のオンラインセミナーで得た学びの共有と、サブテーマに沿ったディスカッションを行いました。サブテーマは4つ設定し、各テーマを話し合う場を「Café」と呼び、各「Café」にはファシリテーターとなる「Caféマスター」を置きました。

安田直史 Café (写真①)

「感染症と差別・偏見」

- 保健医療や国際保健でも、「格差」の問題が取り上げられることは多くなってきたものの、差別や偏見が「普遍的」「制度的」な問題として取り上げられることは、ほとんどないのではないかな?



写真①: Yasuda Caféの資料から

- 感染症の流行で引き起こされる差別や偏見は、これまでも再三繰り返されてきたにもかかわらず、今回も同じ過ちを繰り返している
- なぜ感染症で差別・偏見がおこるのか? 差別・偏見がもたらすものは? 効果的な予防と対応は?

柳澤沙也子 Café (写真②)

「アジアの高齢化」

- ユニバーサル・ヘルス・カバレッジが未発達で介護保険がない国が多い
- 確実に高齢化が進むアジアにおける高齢者介護のあり方は?
- 家族やボランティア頼みでいいのか?

インドネシア:

高齢者健診 (ボシアンドゥワンランシア)

- 地区単位で活動
- 既存の妊産婦・乳幼児対象の保健ポストと共立
- 血圧測定等の簡単な健康チェック、予防啓発活動、軽い運動、内服薬の提供等
- 地区の保健ボランティアが主体となり実施、保健センターの医療職も介入



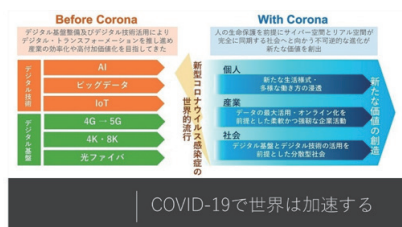
写真②: Yanagisawa Caféの資料から

佐伯壯一郎 Café: (写真③)

「10年後の日本社会 (とグローバルヘルス) を考える」

- 人間社会は狩猟 (Society 1.0)、農耕、工業、情報を経て、新たな Society 5.0 へ
- Society 5.0 では「人間というアイデンティティ」崩壊の危機?

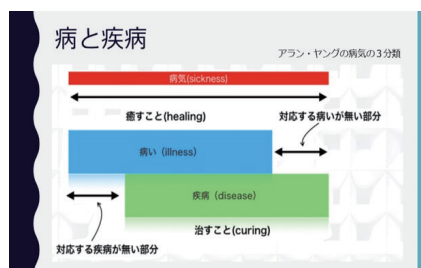
- 日本社会は COVID-19 によって急速に発展している面があるが、10年後の社会はどうなっている？ それに伴って医療はどうなっている？ 10年後の医療の課題はどうなっている？ 多様な課題解決のために人類はどんな武器を手に入れ、活用しているだろう？



写真③：Saeki Caféの資料から

森本早紀 Café：(写真④)

- 「ヘルスとウェルビーイングのこれから」
- WHO 憲章が提唱する「ヘルス」の定義と、その文脈での「ウェルビーイング」
 - あなたの考えるウェルビーイングとは？
 - ポストコロナ時代の健康とは？
 - 健康と医療の多様性とは？

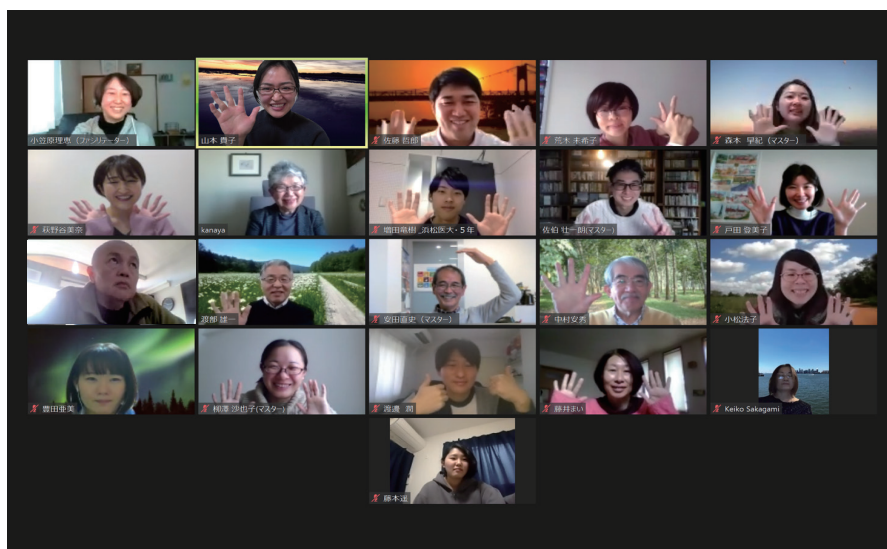


写真④：Morimoto Caféの資料から

Café 当日の進行

Global Café は 21 名で行いました。使用したオンライン会議アプリは ZOOM です (写真⑤)。

簡単な自己紹介とこれまでのオンラインセミナーの総括を含むイントロダクションのあと、4名のカフェマスターがそれぞれのテーマ紹介を行いました。Global Café の狙いはとにかく「みんなで語ろう！」。最低限の情報共有は駆け足で済ませて、早速 Café Time に移りました。Café Time では、ZOOM の



写真⑤ 参加者集合写真

レークアウトルーム機能を使って、参加者を4つのCaféに割り振り、それを4回繰り返しました。1回のCafé滞在時間は20分に設定し、参加者自身でのCaféの移動はできない設定にしました。全員がすべてのCaféを回れるように、また毎回できるだけ違うメンバーでの語りができるように、グループ分けには少々苦労しました。うまく分けたつもりだったのですが、最終的には3つのCaféにしか行けなかったという方が2名いたことが判明。なかなか思うようにはいかないものです…。当初、20分では短すぎる？という危惧がありました。しかし実際は、少し名残惜しさが残るくらいで次のCaféに移動する、というなかなか絶妙な長さでした。5名前後で一つのテーマを矢継ぎ早に語るのに、20分という長さは悪くなかったように思います。

参加者からの声

参加者の中には、大学関係者や医療関係者に加え、行政や企業の方々もいらっしゃいました。NY市の行政で働いていらっしゃるアメリカ在住の方にもご参加頂き、地域的な広がりもありました。こうした広がりにはオンラインならではの！

最後に、いくつか参加者からの声をご紹介します。

- バックグラウンドが違う方々のお

話を聞いたのが貴重

- 世界のあり方や価値観が多様化している世界。課題や解決策も多様化していくように感じている。様々なバックグラウンドを持つ人たちとの語りあいの機会は、社会の見え方を多角化し、共感や相互理解を生むとても良い機会
- 今後の医師人生の糧になっていくと感じた
- 解放感いっぱい、モヤモヤしていたものを思いっきりアウトプットできた
- 刺激を受けた。難しい課題であっても、新しいアイデアを創造することで解決できるということを学んだ

Global Café のこれから

2021年1月現在、COVID-19の流行はまだ収まる気配がありません。face-to-faceで集うのは、もう少し先のことになりそうです。関西グローバルヘルス(KGH)の集いでは、2021年も引き続き、従来のオンラインセミナーを開催する予定です。そしてGlobal Caféも年に1~2回、定期的開催できるようにしていきたいと思っています。その時は皆さん、是非一緒に熱い議論を交わしましょう！